

スポーツの力で世界とつながる

流通経大の国際プログラム

スポーツの魅力は、勝利の喜びだけではない。アスリートの姿には、人種、国籍、宗教といった違いを超えて人々を魅了する力があります。加えて、スポーツには「フェアプレー」や「スポーツマンシップ」のように世界中の人々に対して「目指すべき姿」を伝えることができる魅力的な一面もあります。そんなスポーツの魅力を通じて国際社会の扉を開くプログラムが「グローバル教育」を掲げる流通経済大学にはあります。

生活ですが、学生たちは言語以外のコミュニケーションツールを用いて意思疎通を行っています。これらは、国際社会の扉を開くきっかけとなり、さらなるステップアップへと繋がっていきます。

スポーツで世界とつながることは決して難しいことではありません。流通経済大学で、スポーツの魅力を国際的に活用するプログラムに参加して、あなたを大きく飛躍させる機会をつかみましょう！

◆流通経済大学 1965年(昭40)開学。現在は5学部9学科5大学院研究科を擁し、学生数は約5300人。4万1000人を超える卒業生は、ビジネス界はもとより、公務員、教員など多方面で活躍。多くのプロスポーツ選手も輩出している。14年度に続き本年度大学選手権優勝のサッカー部、関東大学ラグビーリーグ優勝3回の男子ラグビー部のほか、関東学生1部校の陸上部、東京新大学リーグの野球部など部活動も注目される。龍ヶ崎キャンパスは茨城県龍ヶ崎市120、新松戸キャンパスは千葉県松戸市新松戸3の2の1。野尻俊明学長。問い合わせは入試センター00120・297・141

上級者

する

ささえる

みる

ミャンマーの伝統スポーツ「チンロン」を講義で紹介



ミャンマーで現地の人とチンロンの練習

世界の多様性を知る 流通経大には、ミャンマーにおける伝統スポーツである「チンロン」を紹介する講義がある。トウ(藤)を編んで作られたボールを6人で落とさないように蹴りながら、さまざまな技を繰り出すスポーツだ。同大学大学院に所属する菅原敬弥さんは、大学時代に「チンロン」を知り、その後ミャンマーで開催された第1回アジア大会に日本代表として出場した。「初めてミャンマーを訪れた時は、聞き慣れないビルマ語に萎縮したが、一緒にプレーする中で自然と感情を共有しコミュニケーションが図れるようになった」と話す。「チンロンを通じて、ミャンマー独自の文化的な行動を垣間見ることができた。現地に溶け込んでいくことで、異文化理解と異文化交流が可能になった」。ミャンマーに強い関心を持つ今は「チンロン」が研究テーマだ。

また、所属する陸上競技部が2年に1度行うタイ合宿では、現地の選手とも交流するという。「スポーツで世界とつながることは、世界の多様性を知り、国際理解を可能にする。自分自身の価値観や考え方も大きく成長させてくれる」と、国際社会の扉を開くスポーツの力を説明した。

【田畑亨准教授】

陸上部がタイ合宿で選手交流



タイのタマサートスタジアムで合宿を行った陸上部

初心者

インドネシアでラグビー普及活動



ジャカルタから東へ約650kmのボジョネゴロで開催されたラグビーフェスティバルにて、小学生から大学生までの幅広い世代にラグビーの指導を行った。④ジャカルタの高校ではラグビー体験を開催

JICAとボランティア派遣協定

昨年6月、流通経大は独立行政法人国際協力機構(JICA)と複数年にわたって途上国にボランティアを派遣する覚書を結んだ。インドネシアにおけるスポーツの発展だけでなく、スポーツを通じた開発に貢献する国際協力プログラムを実現させた。学生は、海外で自分の役割をまっとうする経験を通じて「リーダーシップ」や「フォロワーシップ」など卒業後の人生において役立つ力を身につけることができる。今年2月から3月まで1カ月間、8人の学生と教員2人でインドネシア各地を回り、現地のラグビー協会や学校と協力して3000人以上に普及活動を行った。「Terima Kasih very much」(インドネシア語の「ありがとう」+very much)。知っている現地語と英語を組み合わせて必死にコミュニケーションをとった。数回に1度は運を天に任せてオーダーし、食事のレポートを増やしていった。現地の人々の優しさで助けられ、失敗と成功を繰り返しながら、グローバルに活躍できる知力と体力が身についた。スポーツのたくさんの魅力をあらためて知ると同時に

に「どんな状況であっても生きていけそう！」と社会に出て役立つ「タフさ」を手に入れる。そして、言葉だけでなく異文化を理解する力を身につけることで、多様な考え方を持つ同僚たちと協力しながら仕事を進めるために必要な「多少のことでは動じない」力も育むことができたのではないかと。

国内で開催されるスポーツを通じた国際交流イベントにスタッフとして参加するプログラムもある。あなたに冒險的な心が少しでもあれば、スポーツを通じて楽しく異文化を理解するプログラムに参加してみよう。「言葉の壁」を乗り越えて自らの役割を果たす力がつかはず。そんなチャレンジもして欲しい。

スポーツ施設が充実する流通経大には、さまざまなスポーツの国代表チームが合宿に訪れるため、海外へ行かなくてもキャンパスで国際交流ができる。昨年はタイ、シンガポール、韓国の女子ラグビー代表が合宿を行い、学生との合同練習や地元の子どもの交流を楽しんだ。他にもキューバの柔道とタイの陸上五輪の事前キャンプをキャンパスのある龍ヶ崎市で行うことが決まっている。

【向山昌利准教授(元ラグビー日本代表)】

各国スポーツ代表が合宿で訪問 海外へ行かなくてもキャンパスで国際交流



流通経大で合宿をしたタイ女子代表は、地域の子どもたちとの交流も行った

世界で活躍アスリート 同級生の中から出る!?



昨年のインカ男子団体優勝のトライアスロン部

トライアスロンで五輪4度の田山寛豪 サッカー部はユニバーシアード3選手

流通経大が輩出したオリンピックと言えば、前回のリオも合わせて五輪に4回出場したトライアスロンの田山寛豪。一線を退いた今も14年に創部したトライアスロン部の監督として後継者の育成を目指す。1年生ながら男子の小原北斗、女子の杉原有紀はともに日本トライアスロン連合の強化指定選手。去年のU-19日本選手権で小原は優勝、杉原は3位、日本選手権では小原が13位、杉原が6位に食い込んだ。

昨年2度目の大学選手権制覇を果たしたサッカー部は、ユニバーシアードに3人の選手を出した。今年の卒業生ではJ1仙台のジャーマイン良、J1川崎Fの守田英正、J2横浜FCの立花歩夢がいる。

海外のリーグで活躍する卒業生も多い。ラグビーでは、リオ五輪に出場した合谷和弘、現在7人制日本代表で主将を務める小沢大、フィジー出身のジョセファ・リリダムなどのOB勢、女子では昨年女子W杯でも活躍した2年生の鈴木彩夏らが東京での五輪出場を狙う。

流通経大のユニホームを着る同級生から、将来世界で活躍する選手をいち早く見つけ、東京五輪で活躍する姿を応援するのが今から楽しみ!?

【藤原庸介准教授(JOC理事)】



【昨年の全日本大学サッカー選手権大会で優勝したサッカー部】

CLIPが語学学習サポート
○ラグビーでは南アフリカやニュ

ージーランド、サッカーではフランスやスペインなどへ、毎年スポーツ留学をしている。まず必要になるの

は語学力。短期であれば語学テストの受験は必要ないが、最低限の日常会話には必要になる。留学のための英

語学習をサポートするのが語学学習センターCLIP。ネイティブの教員が2人常駐し、留学や語学力アッ

プの相談に応じる。また、校友会奨学金を利用すれば、留学にかかる費用が抑えられる。学生のうちに、日

本以外の国を見て、さまざまな人と交流することで大きく視野が広がるはず。